

## 日本気象学会1991年度秋季大会の報告

日本気象学会1991年度秋季大会は、1991年10月23～25日に名古屋国際会議場で行われた。参加者数は約470名（うち非会員約60名）であった。2日めの午後には、山本・正野論文賞の記念講演があり、「グローバル水循環とアジア」というテーマで大会シンポジウムが行われた。なお堀内基金奨励賞については、受賞者の都合で記念講演はなかった（次回大会で行われる予定）。

スペシャル・セッションとしては、「モンスーンアジアの水循環」が2日目に行われた。また、火山噴煙（主にピナトッポ山の噴火によるもの）およびクウェート油田火災の噴煙に関する研究発表が13件集まったので、これらをまとめて1日目の午後に2つのセッションを設定した。次回大会では、より柔軟なセッションが設定できるよう、従来の「内容の分類」に代えてキーワードによる申し込みを採用することとしている。これについては、会員各位のご協力をお願いするとともに、その改善に関

するご意見をお待ちしている。

講演件数は258件で、その内訳は第1種講演が185、第2種講演が60、ポスターが13件であった。第2種講演として申し込まれた講演のうち、予稿の書き方が第2種の要件を満たさなかったためプログラム編成時に第1種に変更されたものが24件（前回は30件）あった。

テレビ局や新聞社による取材活動も活発であった。ライト使用などによる講演への影響を少なくするよう、取材陣が配慮している様子がうかがわれた（この点は、事前に大会事務局を通じて報道各社にお願いしておいた）。

大会前日（22日）には、名大水圏研で2つの研究連絡会による個別の研究会が開かれ、26日にはやはり名大水圏研で TRMM に関する研究会が行われた。

今大会事務局として大会準備・運営にご尽力頂いた名古屋地方気象台および名古屋大学の皆様には深く感謝致します。

講演企画委員会